

二度目の挑戦で金賞を獲得 腕を競い合える楽しみを実感

第31回技能グランプリ・石工職種 金賞（第一位）鈴木康晶氏

二日間で計8時間にわたる熱戦の末、技能グランプリ・石工職種で栄えある金賞（第一位）に輝いた鈴木康晶氏に、今大会のことを振り返っていただいた。

技能グランプリ優勝
おめでとうございます。2年前の前大会で初挑戦して銅賞、二度目の今大会で見事金賞を手に入れました。出場のきっかけは？

鈴木 私は岡崎の犬塚石材本店で修業したのですが、そこで修業した人たちが4年に一度集まる「親和会」の総会があり、その席で先輩の高須保雄さんから第26回技能グラ

ンプリで優勝したという報告を受けました。その時に初めて技能グランプリの存在を知ったのですが、いずれ機会があれば出てみたいと思っていました。

私は栃木県石工技能士会に入っています。栃木県で技能五輪が2017年に開催されるとい

る技能五輪（2015年の第53回技能五輪全国大会）を見ておこうと足を運びました。その会場で若い石工のみなさんが一生懸命に加工して、その姿を見て私も無性に

出たくなりました。血が騒いだわけです（笑）。思い切って技能グランプリに出てみようという意

見に行きました。これまでの御影石（愛知県産、夏山石）に変わり、その大会から中硬石の江持石（福島県産）が使われることになったのですが、

江持石は技能検定でも使っている馴染みのある石でしたので、「これならやれる」とさらにやる気が高まりましたね。

前大会は入賞者1名でしたので、今大会では「2名とも入賞してほしい」と技能士会の仲間からのエールもありました。銅賞になった金野さんもかなり気合いを入れて練習

——前大会と今大会では気持ちの上で違いがありましたか？

鈴木 特に違いはなかったですね。今大会の参加者13名のうち、私も含めて8名が前大会の入賞者でしたから、おそらく今回も金賞は無理だろうと思っていました。何としても金賞を獲りに行く

——時間配分が重要だったわけですね。練習ではどういいうちに重きを置きましたか？

鈴木 R面加工はどうしても時間がかかってしま

——大会ではその練習の成果が出せたのではな

りませんでした。若野石のほう

——大会ではその練習の成果が出せたのではな

作業で苦労したのは

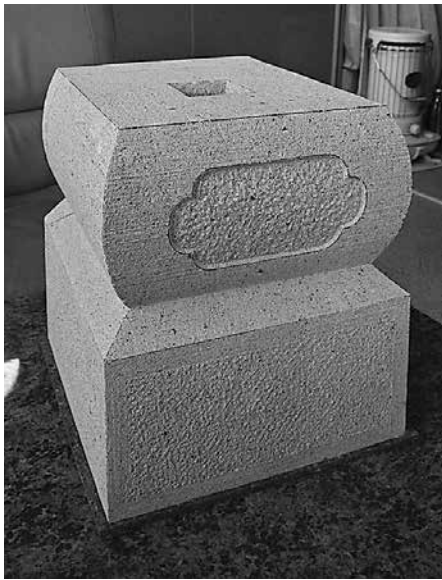
——精神面ではどうだったの

優勝した今、どんな

——これからの抱負は？



技能グランプリ会場にて課題作品制作中の鈴木康晶さん



見事、金賞に輝いた鈴木さんの作品



鈴木康晶さん（53歳／栃木県・有精工石材店）



競技の終盤には、様々な角度から作品をチェックし、微調整している様子も

基本に立ち返って、半月ほどの平面加工ばかりをやっていた。その後で課題作品を作る練習に取り掛かり、今回は9個作りました。前大会の練習で作った課題作品は15、16個でした。9個のうち江持石は3個で、残り6個は若野石でやる。正面から垂直に刃を入れるやり方もあるが、私の場合は斜めから刃を入れていくやり方でした。これは人によってスタイルが違いますが、私の場合はこのやり方のほうがやりやすく、時間を短縮できました。

——大会ではその練習の成果が出せたのではなかったか？

鈴木 最初の休憩に入る前は、石が柔らかく感じ、予定より早く作業を進めることができました。たまたま最初に取り掛かった面の石目が良かったので、コタキキの時間を短縮できました。

——大会ではその練習の成果が出せたのではなかったか？

鈴木 今大会で栃木県から入賞者2名という結果を出せました。経験してきたことを後輩に伝えて、県内から技能グランプリの挑戦者がこれからも続いて出てくるような伝統を築いていくことが目標です。

——これからの抱負は？